

# 『椋鳥通信』への視覚 5

——『椋鳥通信』における人名の頻出順位（トップ二十九）——

金子幸代

一九〇九年（明治四二）三月発行の「スバル」第一年第三号以降、一九一三年（大正二）一二月発行の「スバル」第五年大一二号（終刊号）まで途中三回の休載はあったが五年間という長期にわたって『椋鳥通信』を五五回も連載している。これまで筆者は、二〇〇六年四月編著『鷗外女性論集』（不二出版）を著

し、日露戦後の情報発信の場として果たしていた『椋鳥通信』の重要性に着目し、当時の文学作品に与えた影響を考察してきた。「読売新聞」など当時の新聞で『椋鳥通信』が連載当初から鷗外

が編んだものとして注目され反響を呼んでいたことが裏づけられ、『森鷗外の『椋鳥通信』——『さへづり』・『沈黙の塔』へ——』（富山大学人文学部紀要）五四号、二〇一一・一）を発表した。

現在、『椋鳥通信』の全六八九項目の分析に着手し、すでに二〇〇七年八月には「鷗外『椋鳥通信』から『さへづり』へ——情報メディアと創作——」（『日本比較文学会東京支部研究報告』）で、

『椋鳥通信』の女性に関する記事が、同時期の女性投稿雑誌「女子文壇」の中で「西洋婦人新聞」や「西洋の婦人」という名で転載され伝播されていたことを明らかにしてきた。

『椋鳥通信』の主要な情報原については、前々号三号の調査研究<sup>1</sup>によつてその原典がベルリナーターゲブラットと確定してよいこともわかった。加えて前号<sup>2</sup>では、特に発禁に関する『椋鳥通信』の記事を紹介した。一九一〇年の大逆事件に端を発する政府の言論弾圧に抗するように『椋鳥通信』で意識的に発禁問題、とりわけ興行禁止が多く取り上げられていることを考察した。本稿では、『椋鳥通信』

<sup>1</sup> 拙稿「『椋鳥通信』への視角 3——『椋鳥通信』の原典ベルリナーターゲブラットについて」（『富大比較文学』三集 二〇一〇・一二）

<sup>2</sup> 拙稿「『椋鳥通信』への視角 4——『椋鳥通信』の原典ベルリナーターゲブラットと発禁問題——」（『富大比較文学』三集 二〇一一・一二）

の人名に注目し、頻出の度合いを調査したので報告していきたい。

トップ一〇のうち最も多いのがハウプトマンで二二〇回、ついでゲーテが一〇九回、トルストイが一〇七回と上位三番までが、高頻出であることが明らかになった。四位以降は、ストリントベリー七回、ヴェディキント六八回、ダヌンツィオ六三回、ワグナー六三回、シラー六一回、ビョルンソン五九回、オイレンベルク五一回となる。鷗外の関心を反映して文学者が十人中九人と多く、それ以外は音楽家のワグナーである。この傾向は以後も同様だが、おもしろいのは一九位にアメリカ大統領ルーズベルトが四〇回も登場していることである。これはルーズベルトがヨーロッパ、とくにドイツを訪問したときの様子が伝えられたためである。女性解放運動に批判的な立場にたいする揶揄が見られる。このように、『棕鳥通信』の傾向を人物から抽出していくことが重要であろう。そこには当時の西欧文学・文化・思想などの動向がつぶさに伝えられている実相が見えてくるだろう。

	1909	1910	1911	1912	1913	総計
1 Hauptmann	7	16	22	31	44	120
2 Goethe	11	25	28	23	22	109
3 Tolstoi	3	18	57	19	10	107
4 Strindberg	1	13	8	47	8	77
5 Wedekind	2	15	16	20	15	68
6 D'annunzio	3	19	19	10	12	63
7 Wagner	11	11	24	9	8	63
8 Schiller	5	9	14	24	9	61
9 Bjoernson	2	44	4	7	2	59
10 Eulenberg	1	10	17	10	13	51
11 Kainz	3	29	12	4	1	49
12 Sudermann	3	12	10	12	9	46
13 Bahr	0	13	14	8	10	45
14 Gorki	4	14	6	13	8	45
15 Reinhardt	1	5	22	9	6	43
16 Hebbel	1	27	7	2	6	43
17 Strauss	4	15	10	9	3	41
18 Ibsen	16	5	4	8	7	40
19 Roosevelt	4	32	2	0	2	40
20 Fulda	2	10	11	15	1	39
21 Schoenherr	1	4	19	11	3	38
22 Bismarck	8	9	8	11	1	37
23 Liebermann	0	15	12	6	3	36
24 Shakespeare	4	6	10	5	11	36
25 Schmidt	3	9	11	5	7	35
26 Schnitzler	0	11	11	9	4	35
27 Kleist	0	9	6	15	5	35
28 Maeterlinck	3	10	8	11	2	34
29 Klinger	1	14	9	8	2	34

棕鳥通信の年別人物の傾向を表にしてみたので参照いただきたい。

## 椋鳥通信人名トップ29

